

学会だより

JDDW2017 第21回 日本肝臓学会大会

榎本 信幸

(山梨大学医学部第一内科)

2017年10月12日から15日まで、4日間にわたりJDDW2017(第25回日本消化器関連学会週間: Japan Digestive Disease Week 2017)が福岡の福岡国際センター、福岡サンパレス、福岡国際会議場およびマリンメッセ福岡にて開催されました。このなかで第21回日本肝臓学会大会は信州大学消化器内科の田中榮司教授が会長となられ、素晴らしい内容で多数の発表と活発な討論が展開されました。以下にその概要をお伝えいたします。

まずシンポジウムは、「HBV再活性化対策のUp-to-date」と、国際シンポジウムとして「アジアにおける自己免疫性肝疾患(Autoimmune liver diseases in Asia)」が取り上げられました。前者は近年の免疫治療、抗腫瘍剤、さらにはHCVに対するDAA治療などますます多様化するHBVのreactivationに焦点を当てたもので、さまざまな側面から議論がなされた非常に充実したセッションでした。後者は、日本はもとより韓国、インド、台湾、中国などから発表があり国際的なディスカッションが充実し今後の展開が期待される内容でした。

次にパネルディスカッションは「SVR100%を目指すDAAs治療」として進歩の著しいHCVに対するDAAs治療が薬剤耐性、高齢者治療、そして新規薬剤を中心に討議されました。「肝再生研究の進歩」では基礎から臨床まで幅広い演題の発表がありました。

さらにワークショップでは「B型肝炎治療の

進歩」「NASH診療のトピックス」「肝線維化研究の新たな展開」「肝硬変合併症対策の進歩」「C型肝炎SVR例の予後改善」「肝癌治療の最前線」についての最新の成果が披露されました。

一般演題はデジタルポスターで333題もの演題がさまざまな分野で発表され熱心な討論が展開されておりました。

またJDDWならではの統合プログラムとして肝臓学会主導で「非B非C肝癌の実態と対策」「肝移植における抗ウイルス療法の諸問題」の2つのテーマで学会の枠を超えた発表と議論がなされました。

会長講演としては「B型肝炎/消えないウイルスとの戦い」として田中会長のライフワークの成果と今後の展望を格調高くお話になりました。海外からの招待講演は3名の著名な先生方で、「Prevention of hepatitis B reactivation」を香港大学のYuen教授、「Autoimmune liver diseases in Asia」をソウル国立大学のJeong教授、そして「Hepatitis C: From Hippocrates to cure」を田中会長の恩師でありますNIHのAlter教授が務められました。

以上のように、今回の大会は大変広いテーマと深い内容で会長を務められました田中榮司教授の肝臓病学に関する高いご見識を反映したものであったと実感いたしました。この大会がさらなる肝臓病学の発展に大きく寄与することは間違いないと参加者一同確信した素晴らしいものでありましたことをご報告したいと思います。